

# 私のIELTS留学



## 世界に羽ばたくパスポート

～世界で年間約250万人以上がIELTSを受験しています～

アメリカにも  
IELTSで!!



## 身体を動かして吸収する アメリカ式の実践型授業

### 海外で魅せられた 演劇の世界

私は今、欧米の演劇について学んでいます。興味を持ったきっかけは大学1年生の夏、学内の語学プログラムの一貫としてイギリスに1カ月間、短期留学し、演劇の世界に触れたことでした。帰国してすぐに大学の劇団に入団し、欧米演劇のワークショップに参加したり、演劇のゼミに所属してアメリカ演劇について学んだりもしましたが、もっと深く知りたいという思いが強くなり、今度は交換留学制度を利用して、演劇学に強いアメリカのカリフォルニア大学へ1年間、留学することにしました。



Ramayana: Of Monkeys and Men を公演。10カ月間お世話になった International Living Center

### 俳優志望の学生と 演じながら学ぶ

現地では「Theater Arts」を専攻し、日本ではあまりみられない「演技」の科目を中心に履修しました。

授業の内容は、例えば脚本の分析といった座学中心の日本に比べるととても実践的で、身体を動かして実演しながら学ぶ機会が豊富でした。クラスメイトには実際に俳優を目指して日々努力している学生も多く、彼らとともに演じることで刺激をもらい、日本とは違った演技方法について

も肌で感じることができました。

授業は1コマ105分。毎回、頭と身体をフル稼働させて学び、その合間に学内のカフェテリアで食事をとります。夕方の授業が終わって夕飯をすませると、次は課外活動



多くの日本人学生が、未来に大きな夢を描き、世界各国の大学や大学院に留学している。彼らはどのような生活を送り、どのようなことを学んだのだろうか。その十人十色の体験談は留学を考える読者のみなさんに、たくさんのヒントと勇気を与えてくれるだろう。

本コラムはブリティッシュ・カウンシル <http://www.britishcouncil.jp/> の協力により連載しています。

の時間。19時から22時まで、所属していた劇団で公演のための練習に参加しました。練習は毎日あったので、大学の授業の予習・復習は帰宅した後か休日を使って行いました。

留学当初の悩みは、やはり言葉の壁でしたね。特に、劇団の公演にかかわっていくなかでは活発なコミュニケーションが求められるのに、仲間の言うことが聞き取れない、意見を伝えたいのに言葉が出てこない、そんなじれったい状況がしばらく続きました。でも、あきらめずにその都度、時間を見つけて教授や友人に教えてもらうようにしました。教授は、授業外でも発音やライティングについて親身になって指導してくださり、とても感謝しています。

### 留学経験を通して 興味が「夢」に

帰国した今は、引き続き大学で欧米の演劇について学びを深めながら、それとは別に自分で発音の矯正や心理学についても勉強しています。

いつかまた、アメリカへ戻って演劇の世界に身をおきたい。留学先での授業や仲間との公演活動を通じて、はじめはぼんやりとしていた興味の輪郭がくっきりとし、「夢」になったことは大きな収穫でした。

### カリフォルニア大学 唐澤彩子さん

京都府出身。大学1年次に参加したイギリスでの語学研修で演劇に魅せられ、4年次の夏にカリフォルニアへ渡り、演技について本格的に学ぶ。専門はアメリカ演劇。



#### 唐澤さんに一問一答!

**Q 留学して成長したと思うことは?**  
留学前は自分に自信がなく、おどおどしていましたが、海外生活を通して個性を大切に考える考え方に触れ、「自分は自分らしくあればいいんだ」と思えるようになりました。

**Q 実りある留学にするための秘訣は?**  
なぜ留学したいのかを明確化し、目的に合った進学先を選ぶことです。私の場合、演技を学びたいという目的がしっかりとあったからこそ、留学を通してぶれずに多くのことを学べたと感じています。逆に目的がなければ、刺激の多い海外では誘惑に負けてしまい、自分を見失う危険があります。

**Q 留学を目指す読者にアドバイスを**  
留学期間は、はじめは長いように思ってもあっという間に過ぎ去ってしまうものです。常に、悔いのない留学をすることを意識し、充実した海外生活を送ってください。



## アンテナの高い仲間との議論で 自己の文化や常識を再確認

### 学習環境の整った 人類学の名門へ

海外で英語を使って勉強したいと考えていたので、留学制度が整った国際基督教大学に進学し、3年次の秋から1年間、イギリスでの交換留学プログラムに参加しました。留学先に選んだのは、ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 (SOAS)。もともと専攻していた人類学の権威であるうえに、少人数授業を基本とするため、学生と教授との間で議論を重ねながら濃い人間関係を築いていけるのではと考えました。また、多様な人種が集い、歴史的な名所が徒歩圏内にある学習環境にも惹かれました。大学の隣は大英博物館! ロケーションが抜群です。

### 多国籍な学生と 濃密な意見交換

実際に留学し、SOASを選んで大正解だと思いました。学内の多様性は思った通りで、イギリス人より外国人学生のほうが多く感じられるほど。授業の半分が少人数制のディスカッショ



カムデンで古着屋巡り&ストリーフード。



日本語の文献もたくさん揃う SOAS Library

ン形式で進められ、多様な背景を持つ学生と意見を交わすなかで、当たり前と思っていた文化や常識をあらためて考え直す機会が多々ありました。さらに、学生の多くは政治や海外情勢、宗教などに強い関心を持ち、意見を積極的に発信するのが印象的でした。問題意識を持つだけでなく、解決のために行動する。そんな仲間との出会いは大きな財産です。

### 発信力向上の鍵は 「伝える」という意志

イギリスの大学は授業時間が短く、自己学習に重きを置いています。予習で課されるリーディングは大

量で、毎日授業の合間に図書館へ行き、自習していました。また、完璧に予習をしたとしても、授業中にそれを発信することはとても難しく、苦労しました。海外の学生は、自分の経験や知識に基づき、発言することに長けています。彼らの勢いに圧倒されて発言できないでいると、どれだけ予習をしても評価は得られません。焦ってストレスもたまりましたが、教授のオフィスで授業の理解度を確認したり、悩みを相談したりするなかで、「どんな発言にも意味はある。英語力は問題ではない」と励まされ、徐々に発言できるようになりました。ネイティブではない英語スピーカーが多いロンドンで、訛りがあっても、英語が上手でなくても、自信を持って話す人たちに触れ、「伝える気持ち」を大切にしようと考えようになったのも大きかったように思います。

帰国後、就職活動を経て、春から外資系コンサルティングファームに入社予定です。まずは留学で得たコミュニケーション力を生かして海外関係の業務に携わることを目標にしながら、またイギリスで学ぶ機会が持てたらいいですね。

### ロンドン大学

#### 内藤ジェニファーゆかりさん

大学2年生の夏、韓国の高麗大学に6週間短期留学。世界の学生と議論した経験が背中を押し、その後ロンドン大学へ交換留学。人類学を専攻。留学中はトルコ語にも挑戦。



#### 内藤さんに一問一答!

**Q 留学して成長したと思うことは?**  
以前は遠慮がちでしたし、「こうあるべき」というプレッシャーを強く感じて、少しでも人と違うと、不安で落ち着きませんでした。でも、ロンドンで多様な価値観に触れたことで、帰国後はより自由に行動したり、好きな服を着たり。自分の考えをしっかりと主張できるようになりました。

**Q 実りある留学にするための秘訣は?**  
留学の恥はかきすて。貪欲さを大切に。そして何事も明日にまわすのではなく、できるうちにやってしまうこと。明日はまたワクワクする新しい出会いがあるかもしれないし、天気が悪くて気分が乗らないかもしれませんが (笑)。

**Q 留学を目指す読者にアドバイスを**  
海外留学する理由はみなさんそれぞれだと思います。一人ひとりにとっていちばん合った留学先が見つかり、目的を達成できますように。